

第2回 名寄市ゼロカーボンシティ推進委員会

日時：令和6年7月29日(月) 18時30分～20時15分

場所：名寄市役所 名寄庁舎4階大会議室

1 開 会

臼田委員長より開会

名寄市地球温暖化防止実行計画(区域施策編)策定を支援する、日本データサービス(株)も出席する旨の説明。

2 議 事

(1)名寄市のCO₂排出量とCO₂削減目標について[資料1]

日本データサービス(株)より、直近のCO₂排出量から算出した将来推計と削減目標について説明。

(2)名寄市地球温暖化防止実行計画(区域施策編)の構成案について
[資料2]

日本データサービス(株)より、区域施策編の構成について説明。

(3)各事業者や市民に期待される対策について(意見交換)[資料3]

⇒2グループに分かれてグループワーク形式

【Aグループ】

○方針1 省エネルギーの推進

・温暖化対策は頭の中で理解できても、CO₂をどう削減できるかのイメージがわからない。

・具体的にどのような努力により、どれだけ削減できるのか数字が知りたい。

・地域特性としてデマンドバスなどの交通問題がある。

高齢化社会の中、車がないと町まで行けないため、車を使う人が減らない。

・物流2024年問題に対して、積み荷の待機時間の削減に取り組んだ。

・夏の遮熱として、建物を白く塗るのはいかがか。まずは市役所庁舎を塗ることによる効果検証をしてみたい。

建物が全部白いと名寄は雪の街だから面白いのでは。

・酷暑対策としてもエアコンは必要。節電をして体調不良となつては本意ではないので、電気は適切に使用するべき。

・名寄は灯油暖房が多いため冬の暖房も意識するべき。

・電気代を下げる取組も必要と考える。

・除排雪も減らした方がよいのではないかと。交通量を見て本当に少ないところはやめることによってエネルギーやCO2排出量を削減できる。

・節約節電はガマンだが、効率よく仕事や生活をしようとする、必然的にCO2削減につながり、市民の関心も高くなる。そういう進め方でも良いのでは。

・仕事着をスーツからポロシャツにして室温を上げることによって、冷房の使用が減少した。

・各事業者が取り組んでいる事を知る機会があると良いと思う。

・閑散期と繁忙期で勤務時間を変えた。変形時間帯として、冬は15時までの勤務など早く帰る対応により、効率的な仕事につながり、若者にその働き方が定着した。

・学校でも働き方は課題。ICTを活用することもあるが、効率化が難しい。翌日授業準備の時間短縮として、過去の作業データを残して活用した。

○方針2 再生可能エネルギー等の促進

・雪をエネルギーとして活用できないか。農協では雪を活用して、電気を最小限とした。

・ソーラーパネルをつけるとコストがかかるし、それなら石油ストーブが良いのではないかと。国の補助や助成がないと厳しいし、国全体が一律に取り組んでいないと感じる。

・再生可能エネルギーは費用がかかる。そこを組めるようなメーカーや事業者の名寄に来てもらって窓口になってくれると良い。

・再エネやCO2削減に繋がる取組の実証フィールドとしてメーカーに名寄市を使ってもらえると良い。自動運転バスは町村レベルの取組はあるが、市レベルはハードル上がるので、まだ難しいと思う。

・取組が市民の目にとまると、意識が少しずつ変わってくる。

○方針3 循環型社会の形成

・ペーパーレス化を進め、タブレットを導入しても、操作になれておらず、議論の質が落ちてしまうのも良くない。

・学校もタブレットを入れたが、字の書き順や書き方などを低学年に教えるには紙がなければいけない。

・イベントの周知はSNSにすることでペーパーレスにつながり経費削減でき、実質CO2削減にもなる。節約することがCO2削減につながると考えるととっと身近になるのでは。

・民間がペーパーレスにしても、行政への提出書類が紙だと入力し直しとなる。作業量を減らせるようなやり方を協議して検討できる場があると良い。

・化学肥料が高騰しているため、使用を最小限に減らし、経費を削減している。結果的にCO2も削減されている。

○方針4 二酸化炭素吸収源の拡大

・水田を3週間早く干してメタンガス発生を抑える取り組みを実施しており、Jクレジット制度を活用している。

○方針5 環境教育・連携体制の推進

・観光という地域特性から名寄市には天塩川がある。カヌーやサイクリングというコンテンツがあり、CO2を排出しない観光商品として推奨している。

・脱炭素に取り組むと経費が増える。ネットで安く買うと運送でCO2が排出される。

・CO2排出削減の取り組みが評価されなければ事業者の取り組みは進まない。建設業はICTの取組をしっかりと行えば経営審査で評価される。

【Bグループ】

○方針1 省エネルギーの推進

・公用車や郵便車など、市内を運行するような車両を一斉にEV化し、各施設に充電設備を設置するのはいかがか。

・HEMS(ヘムス)で電気使用量が見える化する設備の導入。

※HEMS(ヘムス)とは、「Home Energy Management System」の略で、家庭で使うエネルギーを節約するための管理システムです。

家電や電気設備とつないで、電気やガスなどの使用量をモニター画面などで「見える化」したり、家電機器を「自動制御」したりします。

○方針2 再生可能エネルギー等の促進

- ・名寄は豪雪地帯であり、冬季は積雪の影響で太陽光発電が機能しないため、垂直式太陽光パネルの導入の可能性もあるのではないか。
- ・建設現場でも、電光掲示板に太陽光パネルが導入されている。

○方針3 循環型社会の形成

- ・産業廃棄物は事業者が分別した場合、事業税の補助をするなど、メリットを示すことはできないか。

○方針4 二酸化炭素吸収源の拡大

- ・意見は特になし。

○方針5 環境教育・連携体制の推進

- ・省エネ事業等によって発生するメリットやデメリットを公表して、市民の理解を得ることが大切ではないか。

・正しい情報に基づき、日本は世界に比べて先進的に取り組んでおり、自分たちも積極的に取り組んでいくという姿勢を公に示した方が良い。

・生活に結び付くようなお得な情報をクイズ形式などで、わかりやすく周知するのはいかがか。

・まずは環境教育を通じて市民の意識を向上させる取組が必要。

・子どものころから環境教育をすることで、大人の教育にも繋がる。

・北海道のアプリ「北海道ゼロチャレ!家計簿」、北海道電力「ほくでんエネモール」を活用し、使用量の見える化を図るのはいかがか。

・名寄市電子地域通貨「Yoroca」のサービスに付帯して、電気使用量を見える化するサービスの提供はいかがか。

・「Yoroca」で「てくTECH活動」の歩数と付随して、CO2削減効果を表示する。
→例：車移動の距離を徒歩で移動した場合に換算したCO2削減効果は〇〇t-CO2など

・「名寄市省エネの日」として、学校での環境教育や自転車の利用促進など、まち全体で一斉に取り組む日をつくる。

・「環境のため、地球のための子どもの洋服のお譲り会」を無料で開催するのはいかがか。

3 その他質問事項など

委員：今回の意見が、今後どのようなスケジュールで、どのように取りまとめられていくか予定を教えてください。

事務局：次回、第3回会議は、9月の開催を予定しており、今回の意見を事務局でまとめ、再度ご意見をいただきたい。また、行政の取組を会議で共有したいと考えている。

その後、11月の会議までに計画の素案作成、1月にパブリックコメントを予定している。

委員：次回以降の会議の日程を予め決めることは可能か。

事務局：全員の日程を合わせることは難しいため、委員長・副委員長の日程を事前に調整のうえ、委員へ日程の連絡をさせていただきたい。

4 閉 会

[会議資料]

- 資料1 名寄市のCO₂排出量とCO₂削減目標
- 資料2 名寄市地球温暖化防止実行計画(区域施策編)の構成案について
- 資料3 意見交換のテーマ
- 参 考 名寄市ゼロカーボン推進再生可能エネルギー導入計画 計画書